

● interview ——— 弁当配達の先駆け

宮守町達曾部
1区(旧2区)自治会
宿婦人会

みつえ
熊谷 光栄さん
達曾部/64歳



自分たちにできることを。 結の精神で始まった恩返し

隣近所の支え合い、「結の精神」から始めたのが手作りのお弁当配達です。お世話になっている先輩たちに感謝を込めて、自分たちができないか婦人会のみんなと考えました。「料理ならできるよね」。そんな話から10年間、年1回ですがお弁当を届けました。今は日用品をクリスマスやバレンタインなどの装飾をして届けています。これも、買い物が大変だからと喜んでもらえています。工夫しながら恩返しを続けたいと思っています。

お弁当受け取ったおばあちゃん ——— Voice



佐々木 ツルさん
達曾部/99歳

来るの楽しみにしてだよ

手作りの弁当、チラシをもらってからずっと楽しみにしてだよ。ご飯がいっぱいでお米もピカピカって。おかずもおいしいそうなものばかり。たいしたご馳走だよ。

本当に楽しみで、チラシはこたつの下に挟んでしまっただよ。普段は家に1人。だまってひとりいると寂しくてね。誰か来ないかなあと思ったりするもんだよ。弁当も楽しみだけど、やっぱり人が来るのが本当に楽しみで、とっても嬉しかったよ。



1・3_ 手際よくお弁当作りを進める地域の有志メンバー 2_ 可愛らしくひと工夫加えられたゆでたまご 4_ 10種類程のおかずで彩られたお弁当 5_ 自治会長の千葉さん(左)も感謝を込めてお手伝い

定管理者制度移行後、達曾部地区内で広がっています。市の補助金(300万事業)を活用し名称は「二人暮らし高齢者等見守り事業」に。令和4年度は8つの集落自治会で同様の活動が行われました。

達曾部3区自治会長の千葉一見さんは、「作り手も高齢に人口減少も進む。いつまで続けられるか分からないよ。でも、先輩たちは地域活動をしてきた人生の先輩。感謝を込めて、やるうちはやっていかないと。楽しみに待っていてくれるからね。」そう力を込め、優しく微笑みました。



自分たちにできることを——。

この日は年1回、75歳以上の高齢者に手作り弁当を届ける日。下中斉地区自治会の民生委員と班長が中心となって33食分の弁当を作り上げました。弁当には具だくさんの筑前煮、エビフライ、ぜんまいの煮つけなどなど十種類程のおかずが彩り豊かに並びます。千田千恵子さん(左)と笑いかけています。

日曜日の朝8時、達曾部地区センター調理室にはすでに4人が集まり、作業が始まっています。室内に広がる心地良い香り——。聞けば前日も作業したとのこと。千葉節子さんは、「味染もるがらね。昨日の午後はおしゃべりだったけどと仲間と笑いかけています。」

活動の先駆けは、同町達曾部旧2区(現1区)自治会の宿婦人会。十数年前、婦人会メンバーで60食以上のお弁当を作り、地域の先輩たちに届けました。同婦人会の熊谷光栄さんは、「すごく喜んでくれて、私たちも嬉しくなった」と当時を振り返ります。活動は地区センターの指

達曾部地区で活動広がる

は、「要領をつかむまで大変でしたが、3年目にしてようやく。待ってるよ、楽しみにしてるよ。そう言ってもらえるのがうれしくて。やりがいです」とのこと。「おかずは薄味を意識し、野菜や肉、魚など食材をたくさん使って栄養がとれるように考えています」と話します。

住民のチカラ

お弁当に感謝込め 年1回、人生の先輩へ

地域のお母さんたちが先輩への感謝を込めて始めた年1回の手作りお弁当。その活動が、宮守町達曾部地区で広がっています。たったひとつのお弁当は、先輩たちの大切な楽しみに——。



宮守町達曾部3区(旧5区)自治会
下中斉地区自治会の有志

- 写真(左)から
千葉 節子さん(達曾部、69歳)
瀧本 由美子さん(同、66歳)
千田 千恵子さん(同、63歳)
佐々木 邦子さん(同、71歳)

